

2018年09月25日(火)【外為Lab】松田哲  
タイトル:【今回の日米首脳会談で注目するところ】

日米首脳会談が行われている。

日本の首相は、現地時間9月23日午後(日本時間9月24日朝)に、ニューヨークに到着している。

オフィシャルな日米首脳会談は、明日(9月26日)の予定だが、日米の首脳は、夕食会などで面談しているのだから、事実上は、すでに日米首脳会談が始まっていると見て良いのだろう。

今回の最重要課題は、日米の貿易問題と考えている。

もちろん、北朝鮮の非核化問題も重要課題であるが、北朝鮮問題に関しては、日本が「蚊帳の外」であることが否めない。

北朝鮮問題は、米国からの説明を聞くだけにとどまるのだろう。

日米の貿易問題に関しては、米国側から厳しい要求が予想される。

日本側は、首脳同士の信頼関係を強調して、何とか米国の厳しい要求をかわしたい意向がある様子だが、個人的には、かわしきれないで、米国有利の結果になるのではないかと予想している。

米国のトランプ大統領が、11月の中間選挙に向けて、米国民にアピールするには、日本からの大幅な譲歩を勝ち取る必要がある、と考えるからだ。

特に、今回の日米貿易に関する交渉で注目されるのが、「自動車への追加関税」だ。

7月に行われた米国とEU(欧州連合)の貿易交渉では、当面のところは、米国がEU(欧州連合)に対して「自動車への追加関税」を実施せずに、今後の交渉次第とした。

日本の立場としては、EU(欧州連合)と同様の条件を得ることができるか、否か、がポイントだろう。

つまり、当面のところは、米国が日本に対して「自動車への追加関税」を実施せずに、今後の交渉次第にできるか、否か、ということだ。

この最低限度の条件を得ることができないようでは、今後の日米の貿易交渉は、一方的に日本が負けることになる可能性が高くなる。

+++++

(2018年09月25日東京時間15:15記述)